

コロナ禍における筑波大学臨海実習の授業報告

仙石泰雄¹⁾・古賀大樹²⁾・角川隆明¹⁾・坂上将輝¹⁾・高木英樹¹⁾・武政 徹¹⁾・椿本昇三³⁾
富樫泰一⁴⁾・高野千春⁵⁾・佐竹弘靖⁶⁾・安藤邦彬⁷⁾・渡部厚一¹⁾・塚越祐太⁸⁾

Report of the Sea Side Class in University of Tsukuba during the COVID-19 pandemic

SENGOKU Yasuo¹⁾, KOGA Daiki²⁾, TSUNOKAWA Takaaki¹⁾, SAKAUE Hiroyuki¹⁾
TAKAGI Hideki¹⁾, TAKEMASA Tohru¹⁾, TSUBAKIMOTO Shozo³⁾, TOGASHI Taichi⁴⁾
TAKANO Chiharu⁵⁾, SATAKE Hiroyasu⁶⁾, ANDO Kuniaki⁷⁾, WATANABE Koichi¹⁾
and TSUKAGOSHI Yuta⁸⁾

1. はじめに

筑波大学体育専門学群の必修科目である臨海実習は、前身校である東京高等師範学校において1902年に開始し、日本の大学で行われている海での授業として最も古い歴史を有している¹⁻³⁾。授業の形態は、時代により変化してきたが、実習は途切れることなく継続されてきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、2020年度の本実習を実施することが出来なかった。2021年度においても新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息しない中、授業内容を修正し臨海実習の再開を目指した。以下に、コロナ禍における本学臨海実習の実施に向けた準備の過程および実施した授業内容を報告する。

2. 実習の準備

2019年度までの臨海実習は、2泊3日で実習を実施していた(学生120名×2期)。しかしながら、コロナ禍において宿泊を伴う実習を行うことは困難であると判断し、2021年度は宿泊を伴わない形での実習を計画した。2020年度の春学期Cモジュール^{註1)}から、実技の授業を対面で再開し、新型コロナウイルス感染症の蔓延を防止しながら水泳の実技授業を実施してきたため、同様の感染蔓延予防対策を講じることにより、学内で実習を安全に行えると判断した。そのため、2021年度は隊列を組んで泳ぐ練習を学内で重ね、実習最終日に日帰りで海に行き、本遠泳を実施するプログラムを立案した(資料1、2参照)。1回の実習で海に向かう学生を約60名とし、4期を設けて対象学年全員の実習を終えるように計画した。実習の実施期間は、春学期ABモ

¹⁾ 筑波大学体育系
Faculty of Health and Sport Sciences, Univ. of Tsukuba

²⁾ 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻
Doctoral Program in Physical Education, Health and Sport Sciences, Univ. of Tsukuba

³⁾ 筑波大学名誉教授
Honorary professor, Univ. of Tsukuba

⁴⁾ 茨城大学教育学部
College of Education, Ibaraki University

⁵⁾ 平成国際大学スポーツ健康学部
Heisei International University

⁶⁾ 専修大学ネットワーク情報学部
School of Network and Information, Senshu University

⁷⁾ 茨城工業高等専門学校
National Institute of Technology, Ibaraki College

⁸⁾ 筑波大学医学医療系
Faculty of Medicine, Univ. of Tsukuba

ジュール終了直後の7月1日からとした。尚、本年度は、2020年度に履修予定であった3年生のみを対象とし、標準履修対象学年である2年生は2022年度において履修するように決定した。

海で実習を行う上で、遠泳後に学生が入浴と食事をとることの出来る施設が必要となるため、コロナ禍において利用可能な施設を探った(2021年2月)。これまでの実習で使用してきた海岸の宿泊施設に問い合わせたところ、コロナ禍において60名の人数を一度に受け入れることは出来ないと返答があり、他の海岸の宿泊施設の利用を検討することとした。結果として、他大学の臨海実習の受け入れ実績がある夕日海岸昇鶴(千葉県館山市八幡822)において利用が可能となり、当宿泊施設の前にある北条海岸(東京高等師範学校の時に実習を行っていた芳躰舎(現筑波大学館山研修所)前の海岸)で本年度の実習を実施することとした。

海の使用にあたり館山市役所観光みなど課に連絡し、本実習の実施の了承を得た。その後、館山漁協同組合、千葉県海上保安部館山分室および安房土木事務所管理課に、海および海岸の使用許可に必要な申請書(占有使用許可申請書・実習中の安全対策・緊急時連絡網・遠泳区域概要図)を提出し、使用許可を得た。

3. ガイダンスおよび事前指導

247名の履修対象者に対し、本実習のガイダンスを2021年4月14日にオンライン(Zoomを使用)で実施し、その他の連絡事項はクラウド型学習支援システム(Manaba)を活用して学生に通知した。

臨海実習に参加する学生には、学内の健康診断において心電図検査を受診させ、心電図検査に異常のある学生がいないことを確認した。学内の健康診断を受診できなかった学生は、医療機関において心電図検査を各自で受診させ、心電図検査の結果を提出させた。

臨海実習では、履修者の泳力に合わせて3班編成(A:上級、B:中級、C:初級)で実施するため、初めに履修者の泳力チェックを実施した。これまでは、120名の学生を2日に分けて泳力チェックを実施してきたが、屋内プール内の密集を防ぐために、1日の参加者を60名とし、4日に分けて泳力チェックを実施した。さらに、泳力チェック実施日においては、前半に入館するグループ(13:40-14:00)と後半に入館するグループ(14:10-14:30)に学生を振り分けることにより、感染蔓延予防対策を徹底した。泳力チェック実施日の前日に、過去2週間の健康観察記録表をManabaに提出させた。このことによ

り、屋内プールへ入館する際に健康状態を確認する時間を短縮した。泳力チェック当日において、学生には水着に着替えた状態でプールに来るように指示した。学生がプールに到着した後、玄関前にて検温および手指消毒をし、屋内プール入館時に出席および健康観察記録の提出の有無を確認した。健康観察記録表を事前提出していない学生に対しては、その場で2週間の健康観察記録表を記載させた。学生が屋内プールに入館した後、更衣室を通らずに直接プールサイドに移動させた。50mプールの左右で男女の荷物置き場を分け、荷物を置いた後に泳げる準備をさせ、準備体操およびウォーミングアップを各自で実施させた。ウォーミングアップ前のシャワーの使用を禁止した。ウォーミングアップが終了した学生から随時泳力チェックを受けるように指示した。従来は、クロールおよび平泳ぎの泳力チェックを実施していたが、本年度においては遠泳時に使用する平泳ぎのみの泳力を確認し、プールに滞在する時間を短縮した。泳力チェックを終了した後、速やかに更衣室にて更衣をさせ、屋内プールから退館させた。尚、学生にはプールに入水するまでマスクを着用させ、マスクを外した後は会話を自粛するように指示した。屋内プールは、24時間換気システムが稼働しているものの、屋内プールの窓を全て開け、125cm大型扇風機(BF-125V、ナカトミ社)を2台回すことで換気を徹底した。

泳力チェックの結果をもとに、履修者を3班に振り分け、その後の事前指導日程を決定した(資料1)。事前指導の参加回数を、A班:1回、B班:2回、C班:4回とし、1度にプールに入館する人数を調整した。事前指導参加日の前日に健康観察記録表をManabaに提出させ、屋内プールに入館する流れは泳力チェック日と同様とした。所属する班に合わせてプールの使用場所を分け、密集を避けた(A班:屋外飛込用プール、B班:屋内プール深い側、C班:屋内プール浅い側)。事前指導において、A班とB班は隊列を組んで泳ぐ練習を重ねた。C班においては、大学院生の補助員および水泳部所属の履修者が、学生の泳法指導にあたり、隊列を組んで泳げる泳力の獲得を目指した。水中で指導をする補助員と水泳部の学生には、水泳指導者向け耐水透明マスク(プールマスクマン2、ロッキンプール社)を着用させた。従来、海での実習は水着のみを着用して本遠泳を完泳することを目指してきた。しかしながら、本年度における海での実習が1日のみとなることから、安全に実習を実施することを優先し、B班とC班の履修生はウエットスーツを着用して本遠泳に臨ませることとした。そのため、2回目の事前

指導からB班とC班の履修生には、ウエットスーツを着用させて事前指導を実施した。

コロナ禍以前の実習は2泊3日で行っており、夕食後に講義を実施していた。その講義の一つとして、海で遠泳を実施する意義について考えること目標に、2007年8月に放映されたドキュメント番組である「にっぽん夏紀行：みんなで泳ぎきれ～鹿児島湾横断に挑む小学生（NHK）」を視聴してきた。本年度の実習では、番組動画ファイルをMicrosoft Streamsにアップロードし、学生がオンラインで視聴できるようにした（視聴期間を限定し、学内関係者のみが閲覧できるように閲覧権限を設定）。学生には、6月中にオンライン動画を閲覧するように指示し、番組の感想をManabaのレポートページに提出させた。学生からは、「感動した」「遠泳に対して後ろ向きな気持ちを持っていた自分が恥ずかしくなった」「皆で泳ぎ切りたいという気持ちが強くなった」という感想が多く提出され、海に行く前に本映像を視聴することによっても、高い学習効果を達成できることが認められた。

4. 実習プログラム

上記の事前指導の全プログラムを予定通り終えることができた。7月時点において、茨城県および千葉県館山市に新型コロナウイルス感染症の蔓延状況に伴う緊急事態宣言およびまん延防止重点措置が発令されていないことを確認し、臨海実習を当初の計画通りに実施することを決定した。実習は2日間で構成し、1日目は学内で最終練習を行い（学内実習）、2日目は館山に移動して海で本遠泳を実施した（館山実習）。

実習に関する連絡事項は、事前指導の最終日に口頭で連絡すると共に、Manabaにも詳細な連絡事項を掲載した。学内実習前日に再度直前2週間の健康観察記録表を学生に提出させた。学生には、実習当日に体調が思わしくない場合（発熱、せき、のど、頭痛、倦怠感、味覚・嗅覚異常などの症状）は、実習に参加しないように周知徹底した。尚、実習を欠席した際においても、後日学内で補修を行うことで単位を認定することを説明した。館山への移動には、53人乗りバスを3台手配し、1台への乗車人数を20名前後とすることで移動中における感染蔓延予防を講じた。

指導する教員は、学内実習（高木・武政・坂上）と館山実習（仙石・角川・非常勤講師5名）で担当を振り分け、館山実習を担当した教員は現地に宿泊した。大学院生の補助員については、館山実習には1名のTAおよび4名の補助員が宿泊をして指導補

助を行った。学内実習には、11名の補助員が指導補助にあたり、その内3名が学生とともにバスに乗り館山実習にも参加した。

実習初日（学内実習）は、事前指導と同様の流れで午前および午後の2回実施し、翌日の本遠泳を泳ぐ隊列を決定した。実習2日目（館山実習）は、午前7時に筑波大学をバスで出発し、午前10時までに現地に到着するようにした。学生には、可能な限り水着を着用してバスに乗り降りするように依頼し、現地到着後の更衣時間をなくすようにした。今回の実習では荒天が続いたため、学生が宿泊施設に到着した後は、施設内の食事会場に移動させ、館山実習の開始式を実施した。開始式後、宿泊施設前の海岸に移動し、各班による実習に移った。

海での実習は、10時30分～11時30分に水慣れと海で隊列を組む練習を行った。午前の実習を終えた後、浜にて小休憩をとり、配布した補食（エネルギーゼリー・バナナ・スポーツドリンク）を摂取させた。12時15分より、班ごとに本遠泳を開始した。本遠泳の目標遠泳時間は、A班：1時間30分、B班：1時間15分、C班：1時間と設定し、本遠泳の終了時間が各班で重ならないように遠泳開始時間を決定した。本遠泳中は、大学所有のモーターボート1艘と現地の漁師が操縦する漁船1艘が監視にあたり、遠泳の指揮をとるとともに不慮の事態（体調不良の学生の救護等）に対応した。また、各期において医師および看護師が1名ずつ本部に待機し、学生の医療サポート体制を整えた。

学内実習は、全ての日程を予定通り実施できた。館山実習において1・3・4期では、全ての班において目標時間の本遠泳を達成した。しかしながら、2期の実施日において現地に大雨洪水警報による避難指示が発令されたため、海でのプログラムを実施することができず、現地で講義や班別のミーティング等を代わりに実施した。

本遠泳終了後は、ホテルの本館（女子）と別館（男子）に分かれて入浴し、その後食事会場で昼食をとった。一度に入浴できる人数は、ホテルの指示に従い制限を設けた。また、食事は準備の出来た学生からとらせ、食事中的の会話を自粛し、食べ終わり次第マスクを着用するように指示した。全員が食事をとり終えた後、食事会場で閉講式を行い、その後バスに乗り大学への帰路についた。

実習中および実習後2週間において、怪我人および新型コロナウイルス感染の報告はなかった。また、諸事情により実習に参加できなかった学生6名は、後日学内屋内プールにおいて1時間泳の補講を行い、単位を認定した。

5. 実習を終えて

実習後に Manaba を用いて実施したアンケート調査の結果を図1に示す(有効回答数 = 236名)。例年とは異なる形式で臨海実習を実施したものの、「遠泳技術の向上」と「自然(海)への理解」について、8割以上の学生が「達成できた」と回答した。海での実習は1日のみであったが、学内で事前指導を繰り返す中で隊列を組んで泳ぐ技能を高めることが出来たことが示された。また、自由記述欄には、海で本遠泳を実施できなかった学生から「遠泳を行うことはできませんでしたが、自然を相手にするということはこういうことなんだと実感することができました。」と回答があり、本遠泳を実施できなくても、現地に赴き直に自然を感じることで得られる学びがあったことが示唆された。

「本遠泳前の気持ち」と「本遠泳の感想」について、「自分自身泳ぐのがあまり得意ではないので最初はとてやるのが嫌だったのですが、今回の遠泳をやり、仲間たちと励まし合いながらやったり、ゴールした時の達成感などたくさん得るものがあり、やって良かったなと思いました。」や「できないことができるようになる楽しさを味わうことができたし、何より仲間とみんなでゴールするという感覚がとて楽しかったです。」という記述があった。半数の学生が海での本遠泳に対して不安を感じていたものの、本遠泳を経験することにより大きな達成感を得たことが認められた。特に、集団で泳ぐことに

より、同じ班のメンバーとの仲間意識が芽生え「仲間づくり」について高い達成度が観察された。一方で、2期の学生は「行くまでは、やりたくない、不安、怖い、と言ったネガティブに考えていましたが、いざ遠泳ができないとなるととても残念で、少し寂しかったです。」との記述に見られるように、本遠泳を実施できなかったことに対して悔しい思いを記す学生が多く、日帰りで実施した実習の影響を受ける結果となった。

アンケート結果から、変則日程で実施した本年度の実習においても、例年通りの学習効果が達成されたことが認められた。その要因として、履修者が大学3年生であり、実習に対して主体的に取り組む姿勢が高かったことが影響したと考えられる。また、臨海実習の指導経験の豊かな非常勤講師と医療スタッフが揃ったことにより、短期間においても適切な指導を実現することができた。さらに、現地のホテルスタッフおよび漁師による献身的なサポートがなければ、悪天候の中で実習を実行することは不可能であり、コロナ禍においても実習の実現に協力して頂いた関係者に心より感謝申し上げたい。

今年度の実習において新しい形での実習プログラムを立案することが出来た。ただし、学生からは「楽しかったが、日帰りは大変だった」という感想が提出された。次年度からは、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を鑑みながら、宿泊を伴う実習形態に戻すべく対応したいと考える。

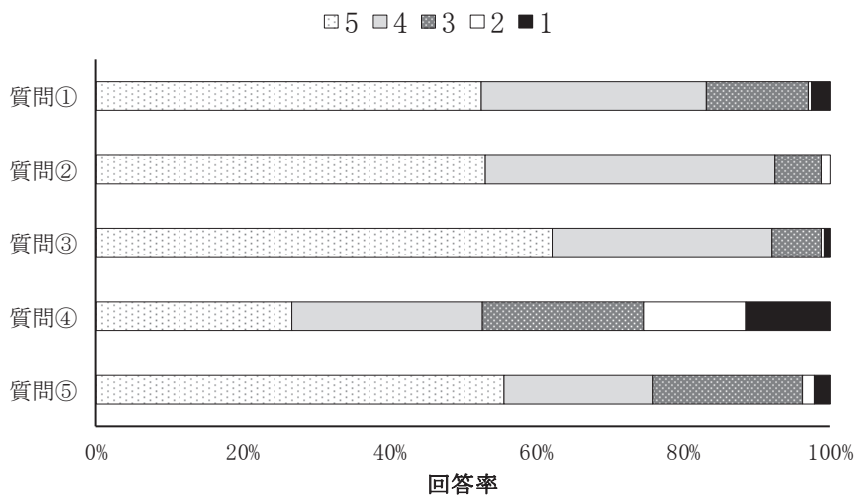


図1 実習後のアンケート調査回答結果 (有効回答数 = 236名)

- 質問① 遠泳技術の向上の達成度 (5: 非常にできた, 3: どちらともいえない, 1: 全くできなかった)
 質問② 仲間づくりの達成度 (5: 非常にできた, 3: どちらともいえない, 1: 全くできなかった)
 質問③ 自然(海)についての理解の達成度 (5: 非常にできた, 3: どちらともいえない, 1: 全くできなかった)
 質問④ 本遠泳前の気持ち (5: 非常に不安だった, 3: どちらともいえない, 1: 全く不安ではなかった)
 質問⑤ 本遠泳についての感想 (5: 非常に良かった, 3: どちらともいえない, 1: 全く良くなかった)

注1) 筑波大学では、春・秋学期を3つのモジュールに分けて授業を実施しており、モジュールごとに単位を認定できるシステムを採用している。

参考文献

- 1) 野村武男, 椿本昇三, 真田久 (2002): 茗水百年史, (編) 茗水百年編纂委員会, 1-191.
- 2) 真田久, 椿本昇三, 高木英樹 (2007): 嘉納治五郎主導による水術再編に関する研究. 体育学研究, 53, 315-326.
- 3) 椿本昇三, 仙石泰雄, 高木英樹, 本間三和子, 武田剛, 安藤邦彬, 大高敏弘, 真田久, 武政徹, 渡部厚一, 宮川俊平, 吉田章 (2011): 筑波大学水泳実習(臨海)の授業報告, 筑波大学体育科学系紀要, 34, 137-149.

資料1 令和3年度臨海実習スケジュール

月	火	水	木	金	土	日
4月12日	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日
		ガイダンス				
4月19日	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日
		現地視察				
4月26日	4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日
		泳力チェック 1期 13:40-14:30			泳力チェック 2期 13:40-14:30	
5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日
		休日		泳力チェック 3期 13:40-14:30	泳力チェック 4期 13:40-14:30	
5月10日	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日
		事前指導 1期B班+C班 13:40-14:30				
5月17日	5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日
		事前指導 2期B班+C班 13:40-14:30				
5月24日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日
		事前指導 3期B班+C班 13:40-14:30				
5月31日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日
		事前指導 4期B班+C班 13:40-14:30				
6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日
		事前指導 1期A,B班+C班 13:40-14:30				
6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日
		事前指導 2期A,B班+C班 13:40-14:30			事前指導 3期A,B班+C班 13:40-14:30	
6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日
		事前指導 4期A,B班+C班 13:40-14:30	期末試験	期末試験	期末試験	期末試験
6月28日	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日
			1期		3期	
期末試験	期末試験	期末試験	現地入り	2期		4期
7月5日	その他					
4期	・資材確認 ・荷済み					

令和3年度 体育専門学群臨海実習

実施要項

1. 授業科目

臨海実習

2. 授業概要

本実習は、学内屋内プールおよび千葉県館山市北条海岸で行う。自然活動（海）での実習を通して、水泳の理論と実技について理解を深める。

3. 実習期日ならびに受講該当学生

- 1期（男子：42名、女子：19名、計61名）：7月1日（学内実習）・7月2日（館山実習）
- 2期（男子：42名、女子：17名、計59名）：7月2日（学内実習）・7月3日（館山実習）
- 3期（男子：45名、女子：19名、計64名）：7月3日（学内実習）・7月4日（館山実習）
- 4期（男子：45名、女子：18名、計63名）：7月4日（学内実習）・7月5日（館山実習）

4. 宿 舎

夕日海岸昇鶴（受講該当学生、教員、医師、看護師、補助員）

〒294-0047 千葉県館山市八幡 822（TEL 0470-23-8111）

5. 教員（*は非常勤講師）

仙石泰雄（実習責任者）、高木英樹、武政徹、角川隆明、坂上輝将

*椿本昇三（筑波大学名誉教授）*富樫泰一（茨城大学）*佐竹弘靖（専修大学）

*高野千春（平成国際大学）*安藤邦彬（茨城高専）

6. 医師・看護師

医師2名、看護師3名

7. 実習補助員（11名）

大学院生

<実習日程および内容>

1. 集合 時間 学内実習：午前 9:30 屋内プール
館山実習：午前 7:00 体芸南駐車場（野球場横）集合・出発

2. 授業内容(日程表)

	午前	午後
学内実習	屋内プール 9:30-11:30	屋内プール 13:00-16:00
館山実習	大学発:7:00 実習 1 10:00-11:30	実習 2 12:00-14:00 館山発:16:00

※実習前に事前指導を学内において 2 回実施する。

(注意)

日程は、天候によって変更がある場合があります。その時は、各班の教員の指示に従って行動します。なお、備品の準備・片付けは班単位で行うので積極的に手伝ってください。また、館内の諸施設では、筑波大生として恥ずかしくない行動を心掛けて利用してください。

3. 臨海実習受講についての諸注意

- 実習前に病気・怪我等の止むを得ない理由によって受講ができない場合は、証明書、または診断書を添えて体芸支援室学群教務に提出する（郵送可、ただし実習日前日までに必着のこと）。
- 実習受講者は、受講年度の保健管理センター定期検診を必ず受ける（未診者は健康診断証明書を各自で用意する）。
- 実習に全期間出席した者を、単位認定の対象とする。
- 実習に関する時間は厳守する。
- 実習の規律に反した場合、即座に受講を停止させる。
- その他、実習中の全ての行動は、各自で責任をもって行う。
- 新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて実習の内容を変更することがある。

<携帯品>

保険証、水着、サンダル、ジャージ、着替え、お金（小遣い）、日焼け止めクリーム、日用品、筆記用具